慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	二〇一二年三田史学会講演会企画の趣旨
Sub Title	Proceedings of the Mita historical society 2012
Author	吉原, 和男(Yoshihara, Kazuo)
Publisher	三田史学会
Publication year	2014
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.83, No.1 (2014. 3) ,p.1(1)- 2(2)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-20140300-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

二〇一二年三田史学会講演会企画の趣旨

吉原和男

二〇一二年六月二三日午後の三田史学会での講演会は共通テーマを「南アジア海域の人の国際移動―インド人と中国人」と設定して、重松伸司氏（追手門学院大学国際教養学部教授）と上田信氏（立教大学文学部教授）のお二人にお話いただいた。

重松氏はインド史、アジア移民史、アジア環境文明史についての著名な業績によって斯学の重鎮としてよく知られる。今回の共通テーマに関連した単著として、『マドラス物語―海道のインド文化誌』（平凡社、一九九三年）、『国際移動の歴史社会学―近代タミル研究』（名古屋大学出版会、一九九九年）、『マラッカ海峡のコスモポリス、ペナン』（大学教育出版、二〇一二年）が挙げられる。

もう一方の上田氏は、中国明清史や中国生態環境史の先端的研究業績によってやはり著名な研究者として知られる。今回の共通テーマに関連した単著としては、『海と帝国―明清時代』（講談社、二〇〇五年）と講演会の翌年に刊行された『シナ海域―蜃気楼王国の興亡』（講談社二〇一三年）がある。

企画者および司会者として共通テーマ設定の趣旨について簡単に述べておきたい。アジア諸国が現在のような経済発展を今後も続ければ、人・モノ・カネは世界中から競ってアジアへ向かうことになろう。そうなれば世界経済の重心は西洋から東洋へ移るのはさほど遠くはないかも知れない。

従来、中国の発展が注目を集めてきたが、インドは中国に続いて大きな発展が見込まれているのは周知のごとくである。自国を離れて海を渡り、経済活動に従事した

ことでよく知られるインド人と中国人が海の向こう側に築いた歴史に注目して、彼らの経済活動を支えた文化および社会関係の特色を論じていただくことになった。多くの移民を海外に送り出して世界の経済発展に貢献し、あるいは支配の基礎を築いた民族は洋の東西を問わず少なくない。講演者とともに「人の国際移動」の歴史をあらためて考える機会としたい。

当初は印僑と華僑の活躍の歴史的背景についての講演会を企画したが、中国人についてはともかく、重松氏の講演においてはインド人について特に注目するということではなく、ペナン島というマラッカ海峡の小さな島に築かれた植民都市に住む多くの民族の一つとしてインド人が扱われることになった。

なお、当日は会場にて多くの参加者から質問やコメントを頂戴した。時間不足のため必ずしも総てに対応していただけなかったことは残念であったが、講演に基づき執筆された今回の掲載論文にはある程度の対応をしていただけた。また、上田氏の掲載論文は諸事情により当日の講演テーマとはやや異なる内容になっている。

〈文学部東洋史学専攻〉